

■洞薬会（北九州地区勤務薬剤師） 2 月度学術講演会

（2012/2/16, 18:30～, 会場；ステーションホテル小倉）

「薬剤師として知っておきたい感染症・抗菌薬治療のトピックス」

財団法人平成紫川会 社会保険小倉記念病院 婦人科副部長 宮崎博章先生

〔講演要旨〕

抗菌薬、抗ウイルス薬やワクチンの進歩は目覚ましく、我々は、多くの薬剤によって感染症から守られている。しかし、メチシリン耐性ブドウ球菌（MRSA）や多剤耐性緑膿菌など、抗菌薬が効きにくい耐性菌が、本来感染症が起こりにくい環境である病院・医療施設で院内感染を起こしているとは、周知のとおりである。また、本邦では焼き肉店で、ドイツでは、野菜が原因と思われる腸管出血性大腸菌による食中毒が起こり、多数の死亡者が出たことは記憶に新しい。特に、ドイツで流行した腸管出血性大腸菌は、セフェム系薬に耐性を示す基質特異性拡張型βラクタマーゼ（ESBL: extended-spectrum β-lactamase）産生菌であった。ESBL 産生菌は、大腸菌をはじめとする多くの腸内細菌に確認されており、複数の抗菌薬に耐性を示し、市中感染だけでなく、院内感染の原因ともなっている。これらの背景には、ヒトに対する抗菌薬の使用だけでなく、畜産や養殖魚などに使用されている抗菌薬が耐性菌の出現を惹起しているとの報告もある。一方で、MRSA 治療薬としてダプトマイシンが使用可能となり、MRSA 治療は新しい時代に入っている。今回、問題となっている感染症と抗菌薬のトピックを、薬剤にかかわるすべての薬剤師の先生方に解説したい。